

山に登る

金昌明

私の名前はそうめいです。両親は私が聡明な人になることを願ってきました。しかし、私は聡明な人ではないと思います。

子供の時から私は新しい知識をなかなか理解することができませんでした。学校の成績も普通でした。友達とゲームをしてると、私はしばしば負けました。同時に、辛抱強くもありませんでした。長時間の勉強を我慢することはできませんでした。そんな愚かな私はしばしば失敗しました。失敗後の痛みは私の中で山のように大きくなるといえました。だから私は山に登って何が乗り越えたいと考えるようになりました。

大学の時に私はクラスメートと一緒に黄山に登ったことがあります。時間を節約するため、私たちはケーブルカーで山に登りました。登山後、他の人が私に黄山について問いました。私は「景色はよかったですけど、あまり

おもしろくながった。」と言いました。しかし、自分の足で黄山に登った他の人は「やっぱり黄山は最高だった。」と言いました。「黄山の特徴は山麓と山頂の風景が非常に異なることだ。登山中の景色も次から次へと変化する。春から冬までの風景を見ることが出来る。」彼はこう言いました。私は「そうですか……。」としが答えられませんでした。自分の足で黄山に登ることは疲れますが、その風景にはそれだけの価値があります。私はその景色が見られなかったの非常に残念でした。

黄山だけでなく、華山にも登ったことがあります。日の出を見たか、たので夜に華山に登りました。華山に登るのはとても難しく、たです。夜はとても疲れて、途中でやめてしまったか、たですが、みんないっしょにけんめい努力して、私も負けたくないと思いました。やっぱり山の頂上へ着いた時、天気が悪いため日の出は見えませんでしたか、私はやめなくてよかったですと感、じとても幸せでした。

その時、結果は重要ではなく、プロセスが最も重要だと改めて気づくことができました。

仕事の時にももちろん山の旅行に行くことがありました。その山はキリアンヌウンテンというとても高い山でした。私はバスで山に登りました。高度3000メートルで私は不快感を感じ始めました。ぬまの、吐き気でした。その不快感は高さが上がるにつれて強く感じました。高度4000メートルの観光地に着いたとき、私はバスに座ったまま降りられませんでした……。高さが上がるにつれて不快感が強かったのですが、景色は素晴らしかったです。バスの窓から見ると、すべてが白い世界でした。空は青くて近かったです。風景が本当にいいほど、到着することはむしろかしいのでしょうか。

今私は中国での仕事を断念し、日本で留学のために勉強しています。私はこれが山に登ることと同じだと思っています。ケーブルカーはありません。でも、毎日学習道路を走り

変わ、この風景はとも魅力的です。毎日非常に難しいのですが、私は毎日自分の頂上の日の出のために努力して、絶対にあきらめたくありません。日本語学校の学習生活より大学院で勉強することはもっとむずかしいと思います。その後、日本で働くこと、家族と幸せに暮らすこと……素晴らしい未来がほしいのですが、達成するのは簡単ではないでしょう。私は聡明な人ではありません。しかし、今少し辛抱強くなりました。「仁者乐山、知者楽水。」これは孔子の名言です。私は水と同じくらい上手に変化することはできませんが、山のようにな不動の心を持ち、他人になりたいのです。スティーブ・ジョブズは「毎日を人生最後の日だと思っ、生きよう。いつか必ずその日は来るだろう。」と言いました。山のようにな人になるために毎日の毎分毎秒を無駄にせずの一つまた一つと山に登らなければならぬと思います。